

奈良工業高等専門学校情報セキュリティ推進規程

平成23年 1月17日制定

平成28年12月 6日改正

目次

- 第1章 総則（第1条・第2条）
- 第2章 情報システムのライフサイクル
 - 第1節 設置時（第3条－第16条）
 - 第2節 運用時（第17条－第27条）
 - 第3節 運用終了時（第28条－第30条）
- 第3章 要保護情報及びそれを取扱う情報システム（第31条－第35条）
- 第4章 アクセス制御（第36条－第38条）
- 第5章 アカウント管理（第39条－第49条）
- 第6章 証跡管理と通信の監視（第50条－第53条）

第1章 総則

（目的）

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項について定めることにより、情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。

（定義）

第2条 この規程における用語の定義及び範囲は、この規程に定めるものを除き、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第98号）別表、独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第99号）及び本校の情報セキュリティ管理規程（以下「管理規程」という。）の定めるところによる。

第2章 情報システムのライフサイクル

第1節 設置時

（セキュリティホール対策）

第3条 情報セキュリティ推進責任者は、情報システムのセキュリティホールに関する情報を収集するものとする。

2 情報セキュリティ推進責任者は、前項の規定に基づき入手した情報から、当該セキュリティホールが情報システムにもたらすリスクを分析した上で、次の各号に掲げる事項について判断し、セキュリティホール対策を行うものとする。

- 一 対策の必要性
 - 二 対策方法
 - 三 対策方法が存在しない場合の一時的な回避方法
 - 四 対策方法又は回避方法が情報システムに与える影響
 - 五 対策の実施予定
 - 六 対策テストの必要性
 - 七 対策テストの方法
 - 八 対策テストの実施予定
- 3 情報セキュリティ副責任者及び情報セキュリティ推進責任者は、利用者に対する留意事項を含むセキュリティホール対策を定め、その実施を管理及び監督するものとする。

(不正プログラム対策)

第4条 情報セキュリティ推進責任者は、管理下にある情報システム（当該情報システムで動作可能なアンチウイルスソフトウェア等が存在しない場合を除く。）においてアンチウイルスソフトウェア等により不正プログラム対策を講ずるものとする。

(サービス不能攻撃対策)

第5条 情報セキュリティ推進責任者は、完全性2であり、かつ、可用性2である情報を取り扱う情報システムについて、当該システムが装備している機能をサービス不能攻撃対策に活用するものとする。

(手順及び文書の整備)

第6条 情報セキュリティ推進責任者は、次の各号に掲げる手順及び文書を整備するものとする。

- 一 すべてのコンピュータシステムに対して、当該コンピュータシステムを管理する利用者を特定するための文書
- 二 コンピュータシステムの設計書、仕様書及び操作マニュアル等のコンピュータシステム関連文書
- 三 通信回線の設計書又は仕様書、通信回線の構成図、コンピュータシステムの識別コード及び情報ネットワーク機器の設定が記載された文書等の通信回線及び情報ネットワーク機器関連文書

(コンピュータシステムに関する対策)

第7条 情報セキュリティ推進責任者は、コンピュータシステムを設置する場合に、別に定める「コンピュータシステムの情報セキュリティ対策実施手順」に従ってコンピュータシステムを設定し運用するものとする。

(サーバ装置の対策)

第8条 情報セキュリティ推進責任者は、サーバ装置を設置する場合に、別に定める「サーバ装置の情報セキュリティ対策実施手順」に従ってサーバ装置を設定し運用するものとする。

する。

第9条 情報セキュリティ推進責任者は、ドメインネームシステムについて、別に定める「サーバ装置の情報セキュリティ対策実施手順」によるものとする。

(通信回線の対策)

第10条 情報セキュリティ推進責任者は、通信回線を構築する場合に、次の各号に掲げる措置を講ずるものとする。

- 一 機密性3情報を取り扱う情報システムについて、通信回線を用いて送受信される機密性3情報の暗号化の必要性の有無を検討し、必要と認めたときは情報を暗号化するための機能を設けること。
- 二 完全性2であり、かつ、可用性2である情報を取り扱う情報システムについて、通信回線として、十分なセキュリティ保証のある物理的回線を選択すること。
- 三 電気通信事業者の専用線サービスを利用する場合には、セキュリティレベル及びサービスレベルを含む事項に関して契約時に取り決めておくこと。ただし、この場合において、機構本部との接続に用いる専用線については、機構本部の情報セキュリティ推進責任者がこの任にあたるものとする。
- 四 情報ネットワーク機器上で証跡管理を行う必要性の有無を検討し、必要と認めたときは実施すること。
- 五 前4号以外についても、通信回線において生じうるリスク（物理的損壊又は情報の漏えい若しくは改ざん等のリスクを含む。）を検討し、必要と認められる対策を実施すること。

(情報コンセント)

第11条 情報セキュリティ推進責任者は、情報コンセントを設置する場合に、次の各号に掲げる事項を含む措置の必要性の有無を検討し、必要と認めたときは措置を講ずるものとする。

- 一 利用開始及び利用停止時の申請手続の整備
- 二 通信を行うコンピュータシステムの識別又は利用者の主体認証
- 三 主体認証記録の取得及び管理
- 四 情報コンセント経由でアクセスすることが可能な通信回線の範囲の制限
- 五 情報コンセント接続中に他の通信回線との接続の禁止
- 六 情報コンセント接続方法の機密性の確保
- 七 情報コンセントに接続するコンピュータシステムの管理

(VPN, 無線LAN, リモートアクセス)

第12条 情報セキュリティ推進責任者は、VPN 環境を構築する場合に、次の各号に掲げる事項を含む措置の必要性の有無を検討し、必要と認めたときは措置を講ずるものとする。

- 一 利用開始及び利用停止時の申請手続の整備

- 二 通信内容の暗号化
- 三 通信を行うコンピュータシステムの識別又は利用者の主体認証
- 四 主体認証記録の取得及び管理
- 五 VPN経由でアクセスすることが可能な通信回線の範囲の制限
- 六 VPN接続方法の機密性の確保
- 七 VPNを利用するコンピュータシステムの管理

第13条 情報セキュリティ推進責任者は、無線LAN環境を構築する場合に、次の各号に掲げる事項を含む措置の必要性の有無を検討し、必要と認めたときは措置を講ずるものとする。

- 一 利用開始及び利用停止時の申請手続の整備
- 二 通信内容の暗号化
- 三 通信を行うコンピュータシステムの識別又は利用者の主体認証
- 四 主体認証記録の取得及び管理
- 五 無線LAN経由でアクセスすることが可能な通信回線の範囲の制限
- 六 無線LANに接続中に他の通信回線との接続の禁止
- 七 無線LAN接続方法の機密性の確保
- 八 無線LANに接続するコンピュータシステムの管理

第14条 情報セキュリティ推進責任者は、公衆電話網を経由したリモートアクセス環境を構築する場合に、次の各号に掲げる事項を含む措置の必要性の有無を検討し、必要と認めたときは措置を講ずるものとする。

- 一 利用開始及び利用停止時の申請手続の整備
- 二 通信を行う者又は発信者番号による識別及び主体認証
- 三 主体認証記録の取得及び管理
- 四 リモートアクセス経由でアクセスすることが可能な通信回線の範囲の制限
- 五 リモートアクセス中に他の通信回線との接続の禁止
- 六 リモートアクセス方法の機密性の確保
- 七 リモートアクセスするコンピュータシステムの管理

(本校外通信回線との接続)

第15条 情報セキュリティ推進責任者は、情報セキュリティ責任者の指示のもとで、本校内通信回線を本校外通信回線と接続するものとする。

- 2 情報セキュリティ責任者は、利用者による校内通信回線と校外通信回線の接続を禁止するものとする。

(上流ネットワークとの関係)

第16条 情報セキュリティ推進責任者は、本校情報ネットワークを構築し運用するにあたっては、本校情報ネットワークと接続される上流ネットワークとの整合性に留意しなければならない。

第2節 運用時

(運用管理)

- 第17条 情報セキュリティ推進責任者は、別に定める「コンピュータシステムのセキュリティ対策実施手順」に基づいて、コンピュータシステムの運用管理を行うものとする。
- 2 情報セキュリティ推進責任者は、別に定める「サーバ装置のセキュリティ対策実施手順」に基づいて、サーバ装置の運用管理を行うものとする。

(接続の管理)

- 第18条 情報セキュリティ推進責任者は、情報ネットワークに関する接続の申請を受けた場合には、別に定める「情報ネットワーク接続手順」に従い、申請者に対して接続の諾否を通知し必要な指示を行うものとする。

(資源の管理)

- 第19条 情報セキュリティ推進責任者は、コンピュータシステムのCPU 資源、ディスク資源及び情報ネットワーク帯域資源等の利用を総合的に、かつ、計画的に推進するため、これらの資源を利用者の利用形態に応じて適切に分配し管理するものとする。

(ネットワーク情報の管理)

- 第20条 情報セキュリティ推進責任者は、本校の情報ネットワークで使用するドメイン名やIPアドレス等のネットワーク情報を適切な方法で取得し、利用者からの利用形態に応じて当該情報を適切に分配し管理するものとする。

(セキュリティホール対策)

- 第21条 情報セキュリティ推進責任者は、継続的に次の各号に掲げる措置を取るものとする。
- 一 公開されたセキュリティホールに関連する情報を適時に入手すること。
 - 二 前号の結果をセキュリティホール対策に反映させること。
 - 三 管理下にある情報システムについて定期的にセキュリティホール対策を実施すること。
 - 四 定期的にセキュリティホール対策及び情報システムの構成の状況について確認及び分析を行い、不適切な状態にある情報システムが確認された場合には、当該システムを是正させること。
 - 五 入手したセキュリティホールに関連する情報及び対策方法を、他の学校の情報セキュリティ推進責任者と共有するよう努めること。

(不正プログラム対策)

- 第22条 情報セキュリティ推進責任者は、不正プログラムに関する情報の収集に努め、

当該情報について対処の要否を決定し、対処が必要な場合には利用者に当該対処の実施に関する指示を行うものとする。

(脆弱性診断)

第23条 情報セキュリティ推進責任者は、情報システムに関する脆弱性の診断を適時に実施し、セキュリティの維持に努めるものとする。

(規定及び文書の見直し、変更)

第24条 情報セキュリティ推進責任者は、手順等及び文書の見直し及び変更を次の各号に掲げるとおり行うものとする。

- 一 必要に応じて「コンピュータシステムの情報セキュリティ対策実施手順」の見直しを行い、必要な改訂を情報セキュリティ責任者に要請するとともに、当該変更の記録を保存する。
- 二 必要に応じて「サーバ装置の情報セキュリティ対策実施手順」の見直しを行い、必要な改訂を情報セキュリティ責任者に要請するとともに、当該変更の記録を保存する。
- 三 コンピュータシステムを管理する利用者を変更した場合には、当該変更の内容について、第6条第一号に規定する利用者を特定するための文書へ反映するとともに、当該変更の記録を保存する。
- 四 コンピュータシステムの構成を変更した場合には、当該変更の内容について、第6条第二号に規定するコンピュータシステム関連文書へ反映するとともに、変更の記録を保存する。
- 五 通信回線の構成、情報ネットワーク機器の設定、アクセス制御の設定又は識別符号(ユーザID)を含む事項を変更した場合には、当該変更の内容について、第6条第三号に規定する通信回線及び情報ネットワーク機器関連文書へ反映するとともに、当該変更の記録を保存する。

(サーバ装置の対策)

第25条 情報セキュリティ推進責任者は、サーバ装置を運用する場合に、別に定める「サーバ装置の情報セキュリティ対策実施手順」に従ってサーバ装置を運用するものとする。

(通信回線の対策)

第26条 情報セキュリティ推進責任者は、通信回線を運用する場合に、別に定める「通信回線の情報セキュリティ対策実施手順」に従って通信回線を運用するものとする。

(運用状況の把握)

第27条 情報セキュリティ副責任者は、セキュリティホール対策、不正プログラム対策、脆弱性診断、規程及び文書の見直し及び変更、サーバ装置の対策、通信回線の対策並びに校外回線との接続の状況を適時に把握し、必要に応じて措置を講ずるものとする。

第3節 運用終了時

(コンピュータシステムの対策)

第28条 情報セキュリティ推進責任者は、コンピュータシステムの運用を終了する場合は、データ消去ソフトウェア若しくはデータ消去装置の利用又は物理的な破壊若しくは磁気的な破壊等の方法を用いて、すべての情報を復元が困難な状態にするものとする。

(情報ネットワーク機器の対策)

第29条 情報セキュリティ推進責任者は、情報ネットワーク機器の利用を終了する場合は、情報ネットワーク機器の内蔵記録媒体のすべての情報を復元が困難な状態にするものとする。

(セキュリティ対策の見直し)

第30条 情報セキュリティ推進責任者は、情報システムのセキュリティ対策について見直しを行う必要性の有無を適時に検討し、必要と認めたときにはその見直しを行うとともに、措置を講じなければならない。

第3章 要保護情報及びそれを取扱う情報システム

(情報システムの性能確保)

第31条 情報セキュリティ推進責任者は、完全性2であり、かつ、可用性2である情報を取り扱う情報システムについて、コンピュータシステムに求められるシステム性能並びに通信回線及び情報ネットワーク機器に求められる通信性能について、将来の見直しを含めて検討し、当該検討結果に従って必要なシステム性能の確保に努めるものとする。

(情報の保存)

第32条 情報セキュリティ推進責任者は、コンピュータシステムに保存された要保護情報について、適切なアクセス制御を行うものとする。

(暗号化及び電子署名の付与)

第33条 情報セキュリティ推進責任者は、要保護情報を取り扱う情報システムについて、次の各号に掲げる措置を講ずるものとする。

- 一 機密性3情報を取り扱う情報システムについては、暗号化を行う機能の必要性を検討し、必要があると認められた場合は暗号化を行う機能を設けること。
- 二 完全性2であり、かつ、可用性2である情報を取り扱う情報システムについては、電子署名の付与を行う機能の必要性を検討し、必要があると認められた場合は電子署名の付与を行う機能を設けること。

2 情報セキュリティ推進責任者は、暗号化又は電子署名の機能のアルゴリズムを選択するに当たっては、必要とされる安全性及び信頼性の検討を行うとともに、電子政府推奨暗

号リスト（平成15年2月20日総務省及び経済産業省決定。以下「政府リスト」という。）に記載されたアルゴリズムが選択可能であれば、これを選択するものとする。

- 3 前項において、新規（更新を含む。）に暗号化又は電子署名の付与のアルゴリズムを導入する場合には、政府リスト又は本校における検証済み暗号リストの中から選択するものとする。

第34条 情報セキュリティ推進責任者は、暗号化又は電子署名の付与を行う情報システムについて次の各号に掲げる措置をとるものとする。

- 一 暗号化された情報の復号又は電子署名の付与に用いる鍵について、鍵の生成手順、有効期限、廃棄手順、更新手順、鍵が露呈した場合の対処手順等を定めること。
- 二 暗号化された情報の復号又は電子署名の付与に用いる鍵について、鍵の保存媒体及び保存場所を定めること。
- 三 電子署名の正当性を検証するための情報又は手段を署名検証者へ提供すること。

第35条 情報セキュリティ推進責任者は、情報セキュリティ責任者の許可の下で要保護情報の処理がモバイルPCにより行われる場合、本校外において行われる場合又は本校支給以外の情報システムによって行われる場合、及び要保護情報を含む情報システム又は電磁媒体が本校外に持ち出される場合について、当該情報システム又は電磁媒体が必要な情報セキュリティ対策機能を備えているか確認するものとする。

第4章 アクセス制御

（アクセス制御機能の導入）

- 第36条 情報セキュリティ推進責任者は、すべての情報システムについて、アクセス制御を行う必要性の有無を検討するものとする。この場合において、要保護情報を取り扱う情報システムについては、アクセス制御を行う必要があると判断するものとする。
- 2 情報セキュリティ推進責任者は、アクセス制御を行う必要があると認めた情報システムにおいて、アクセス制御を行う機能を設けるものとする。

（利用者に対する適正なアクセス制御の指示）

第37条 情報セキュリティ推進責任者は、それぞれの情報システムに応じたアクセス制御の措置を講ずるよう、利用者に指示するものとする。

（権限が設定されていないアクセス対策）

- 第38条 情報セキュリティ推進責任者は、権限のないアクセス行為を発見した場合は、速やかに情報セキュリティ責任者及び情報セキュリティ副責任者に報告するものとする。
- 2 情報セキュリティ責任者及び情報セキュリティ副責任者は、前項の報告を受けた場合は、新たな防止対策等必要な措置を講ずるものとする。

第5章 アカウント管理

(アカウント管理機能の導入)

- 第39条 情報セキュリティ推進責任者は、すべての情報システムについて、アカウント管理を行う必要性の有無を検討するものとする。この場合において、要保護情報を取り扱う情報システムについては、アカウント管理を行う必要があると判断するものとする。
- 2 情報セキュリティ推進責任者は、アカウント管理を行う必要があると認めた情報システムについては、主体認証機能を導入してアカウント管理を行うものとする。

(アカウント管理手続の整備)

- 第40条 情報セキュリティ推進責任者は、アカウント管理を行う必要があると認めた情報システムにおいて、次の各号に掲げる事項を含む手続を明確にするものとする。
- 一 主体からの申請に基づいてアカウント管理を行う場合には、その申請者が正当な主体であることを確認するための手続
 - 二 主体認証情報の初期配布方法及び変更管理手続
 - 三 アクセス制御情報の設定方法及び変更管理手続
- 2 アカウント管理は、情報セキュリティ副責任者の指揮の下で情報セキュリティ推進責任者が行うものとする。

(共用アカウント)

- 第41条 情報セキュリティ推進責任者は、アカウント管理を行う必要があると認めた情報システムにおいて、共用アカウントの利用許可については、情報システムごとにその必要性の有無を判断するものとする。
- 2 情報セキュリティ推進責任者は、アカウント管理を行う必要があると認められた情報システムにおいてアカウントを発行する場合は、当該アカウントが共用アカウントか否かの区別を利用者に通知するものとする。この場合において、共用アカウントは、情報セキュリティ推進責任者が、その利用を認めた情報システムでのみ付与することができる。

(アカウントの発行)

- 第42条 情報セキュリティ推進責任者は、利用者からのアカウント発行申請を受理したときは、申請者が当該情報システムを利用する許可を得た主体であって、かつ、本校の管理規程第31条第3項第三号による処分期間中でない場合において、遅滞無くアカウントを発行するとともに次の各号に掲げる措置を講じるものとする。
- 一 アカウントを発行するにあたっては、なるべく期限付きの仮パスワードを発行すること。
 - 二 業務又は業務上必要な者に対して、管理者権限を持つアカウントをその責務に応じて限定付与すること。

三 業務上の責務と必要性を勘案し、必要最小限の範囲に限ってアクセス制御に係る設定を行うこと。

(アカウント発行の報告)

第43条 情報セキュリティ責任者は、必要に応じて情報セキュリティ推進責任者にアカウント発行の報告を求めることができる。

(主体認証情報の管理)

第44条 情報セキュリティ推進責任者は、パスワードによって主体認証を行う場合においては、パスワードが明らかにならないように次の各号に掲げる対策を講ずるものとする。

- 一 パスワードを保存する場合には、その内容の暗号化を行うこと。
- 二 パスワードを通信する場合には、その内容の暗号化を行うこと。
- 三 保存又は通信を行う際に暗号化を行うことができない場合には、利用者に自らのパスワードを設定、変更、提供又は入力させる際に、暗号化が行われない旨を通知すること。

2 前項の場合において、情報セキュリティ推進責任者は、次の各号に掲げる機能を設けるものとする。

- 一 利用者が、自らのパスワードを設定ならびに変更する機能
- 二 利用者が設定したパスワードを他者が容易に知ることができないようにサーバが保持する機能

3 第1項の場合において、情報セキュリティ推進責任者は、利用者にパスワードの定期的な変更を求めることができる。この場合において、利用者に対して定期的な変更を促す機能のほか、次の各号に掲げるいずれかの機能を設けるものとする。

- 一 利用者が定期的に変更しているか否かを確認する機能
- 二 利用者が定期的に変更しなければ、情報システムの利用を継続させない機能

4 情報セキュリティ推進責任者は、パスワード又は主体認証情報格納装置によって主体認証を行うシステムにおいて、当該システムを他者に使用され又は使用される危険性を認識した場合に、直ちにパスワード若しくは主体認証情報格納装置による主体認証を停止する機能又はこれに対応する識別符号による情報システムの利用を停止する機能を設けるものとする。

5 情報セキュリティ推進責任者は、生体情報による主体認証を行うシステムにおいて、当該生体情報を本人から事前に同意を得た目的以外の目的で使用してはならない。また、当該生体情報について、本人のプライバシーを侵害しないように留意しなければならない。

(アカウントの有効性検証)

第45条 情報セキュリティ推進責任者は、発行済のアカウントについて、次の各号に掲げる項目を定期的に確認するものとする。

- 一 利用資格を失ったもの

- 二 情報セキュリティ推進責任者が指定する削除保留期限を過ぎたもの
 - 三 別に定める利用者パスワードガイドラインに違反したパスワードが設定されているもの
 - 四 六か月以上使用されていないもの
- 2 情報セキュリティ推進責任者は、人事異動等によりアカウントを追加又は削除する場合は、不適切なアクセス制御設定の有無を点検するものとする。

(アカウントの停止)

- 第46条 情報セキュリティ推進責任者は、前条第1項第三号又は第四号に該当するアカウントを発見したとき、管理規程第31条第3項第三号による停止命令を受けたとき、又は主体認証情報が他者に使用され若しくはその危険が発生したことの報告を受けたときは、速やかにそのアカウントを停止するものとする。
- 2 情報セキュリティ推進責任者は、前項の措置をとったときは情報セキュリティ副責任者に報告するとともに、速やかにその旨を利用者に通知するものとする。ただし、電話又は郵便等の伝達手段によっても通知ができない場合はこの限りでない。
- 3 情報セキュリティ責任者は、必要に応じて情報セキュリティ推進責任者にアカウント停止の報告を求めることができる。

(アカウントの復帰)

- 第47条 情報セキュリティ副責任者は、アカウント停止からの復帰を希望する旨の利用者の申し出について、その妥当性を判断し、妥当と考えられる場合は、情報セキュリティ推進責任者に復帰を指示するものとする。
- 2 情報セキュリティ推進責任者は、前項の指示を受けたときは、当該アカウントの安全性を確認したうえで復帰させるものとする。この場合において、安全性が確認できない場合には、協議の上でアカウントを削除するものとする。

(アカウントの削除)

- 第48条 情報セキュリティ推進責任者は、第52条第1項の措置をとった場合は、一定期間経過後、情報セキュリティ副責任者と協議の上で当該アカウントを削除するものとする。この場合において、事実の確認にあたっては、可能な限り利用者の意見を聴取するものとする。
- 2 情報セキュリティ推進責任者は、利用者が情報システムを利用する必要がなくなった場合には、当該利用者のアカウントを削除するとともに情報セキュリティ副責任者に報告するものとする。
- 3 情報セキュリティ推進責任者は、主体認証情報格納装置を用いている利用者が情報システムを利用する必要がなくなった場合は、当該装置を返還させるとともに、その旨を情報セキュリティ副責任者に報告するものとする。
- 4 情報セキュリティ副責任者は、前3項の報告を受けたときは、速やかにその旨を利用者に通知するものとする。ただし、電話又は郵便等の伝達手段によっても通知ができない場合はこの限りでない。

5 情報セキュリティ責任者は、必要に応じて情報セキュリティ推進責任者にアカウント削除の報告を求めることができる。

(管理者権限を持つアカウントの利用)

第49条 管理者権限を持つアカウントを付与された者は、管理者としての業務遂行目的以外において当該アカウントを利用してはならない。

第6章 証跡管理と通信の監視

(証跡管理)

第50条 情報セキュリティ推進責任者は、管理下にある情報システムについて、証跡管理を行う必要性の有無を検討し、証跡を取得する必要があると認めた情報システムについては次の各号に掲げる措置をとるものとする。

- 一 証跡管理のために証跡を取得する機能を設け、証跡を記録すること。
- 二 証跡が取得できなくなった場合及び取得できなくなるおそれがある場合の対処方針を整備するとともに、必要に応じ、これらの場合に対処するための機能を情報システムに設け、当該機能を用いた対処を行うこと。
- 三 証跡の記録を実行するに当たり、事象ごとに必要な情報項目を記録するように情報システムを設定し、取得した証跡記録の保存期間を定め、当該保存期間が満了する日まで記録を保存するとともに、保存期間延長の必要がない場合においては保存期間終了後速やかに記録を消去すること。
- 四 取得した証跡の記録に対して不当な消去、改ざん及びアクセスがなされないようアクセス制御を行うとともに、外部記録媒体等その他の装置・媒体に記録した証跡についてはこれを適正に管理すること。

(証跡管理に関する利用者への周知)

第51条 情報セキュリティ推進責任者は、証跡を取得する必要があると認めた情報システムにおいては、情報セキュリティ推進員及び利用者に対して、証跡の取得、保存、点検及び分析を行う可能性があることをあらかじめ説明しなければならない。

(通信の監視)

第52条 情報セキュリティ責任者又は情報セキュリティ副責任者は、セキュリティ確保のため、あらかじめ指定した者に、ネットワークを通じて行われる通信の監視（以下「監視」という。）を行わせることができる。

2 前項に基づき監視を実行する場合において、監視を行わせる者は、監視の範囲をあらかじめ具体的に定めておかなければならない。ただし、不正アクセス行為又はこれに類する重大なセキュリティ侵害に対処するために特に必要と認められる場合は、セキュリティ侵害の緊急性、内容及び程度に応じて、対処のために不可欠と認められる情報について、直ちに監視を行うよう命ずることができる。

- 3 監視を行う者は、監視によって知った通信の内容又は個人情報等を、他者に伝達してはならない。ただし、前項ただし書きに定める情報については、情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ副責任者及び情報セキュリティ管理委員会に伝達することができる。
- 4 第1項に基づき監視を実行する場合において、監視を行わせる者は、監視を行う者に対して、監視記録を保存する期間をあらかじめ指示しなければならない。
- 5 監視を行う者は、前項により指示された期間を経過した監視記録を直ちに破棄しなければならない。ただし、必要に応じて、情報セキュリティ責任者の許可を得て、監視記録から個人情報に係る部分を削除して、ネットワーク運用・管理のための資料とすることができる。この場合において、当該資料は、なるべく体系的に整理し、常に活用できるように保存するものとする。
- 6 監視を行う者及び監視記録の伝達を受けた者は、ネットワーク運用・管理のために必要な限りで、これを閲覧し、かつ、保存することができる。この場合において、監視記録を不必要に閲覧してはならない。
- 7 監視を行う者及び監視記録の伝達を受けた者は、不必要となった監視記録を、直ちに破棄しなければならない。この場合において、監視記録の内容を、法令に基づく場合等を除き、他者に伝達してはならない。

(利用者が保有する情報の保護)

第53条 情報セキュリティ推進責任者は、ネットワーク運用又はインシデント対処に不可欠な範囲において、利用者が保有する情報を閲覧又は複製することができる。

附 則

この規程は、平成23年1月17日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年12月6日から施行する。